

外国人の生活実態意識調査

～南米日系人を中心に～

報 告 書

2000 年 3 月

浜 松 市

外国人の生活実態意識調査

～南米日系人を中心に～

はじめに

現在、浜松市には17,000人を超える外国人登録があり、これは総人口の約3%にあたります。このなかで、ブラジル人は1万人を超え、全国の市町村で最多となっています。また、ペルー人も1,000人を超えています。これは、1990年の入管法（出入国管理及び難民認定法）の改正後、南米日系人を中心に急激に増加したもので、それまでの在日外国人（オールドカマー）に対してニューカマーと呼ばれています。

彼らの多くは地域産業を支える大きな力となっています。しかし、労働者としてだけ存在するわけではありません。外国籍の人々もそれぞれ浜松市民として、共に働き、学び、生活しています。このような外国人市民の急増に伴い、生活のさまざまな分野で従来にない対応が必要となり、これまでの行政や教育制度、地域社会の仕組みや在り方が改めて問われてきています。

市内に在住する外国人市民のうち、ニューカマーと呼ばれる南米日系人の生活実態や意識がどのようなものであり、彼らが日本で、そして浜松市での生活をどのように感じているのか、また、行政に対してどのような考えを持っているのか、このようなことについてのできるだけ客観的な情報を集めることが、この調査の目的です。

この調査を通して、今後における外国人市民のための諸施策の充実を図るとともに、国際社会に開かれた世界都市・浜松を目指す基礎資料にしていきたいと考えています。

この調査を実施するにあたり、ご協力をいただいた関係各位、並びに、ご回答をいただいた外国人市民の皆さんに感謝申し上げます。

2000年3月

調査の概要

1. 趣 旨 市内に多数在住する南米日系人の生活実態及び意識調査を行うことにより、今後の外国人市民のための施策等の充実を図るとともに、国際社会に開かれた世界都市・浜松を目指す基礎資料とする。
2. 対 象 市内に在住する18歳以上のブラジル人、ペルー人、その他南米日系人。
3. 方 法 調査票はポルトガル語、スペイン語で作成し、1999年7月～10月にかけて配布回収。調査票の配布回収数は以下の通り。

◎調査票配布計	1,537
未到達	86
<u>回収計</u>	<u>515 (回収率 33.5%)</u>
○市の外国人登録から無作為抽出し、郵送・回収方式	
調査票送付	1,000
未到達	86
<u>回収</u>	<u>123 (回収率 13.5%)</u>
○小中学生の保護者への配布・回収方式	
調査票配布	453
<u>回収</u>	<u>308 (回収率 68.0%)</u>
○面接調査方式	
<u>回収</u>	<u>84 (回収率 100.0%)</u>
4. 調査内容 平成4年度、8年度に実施した外国人の生活実態意識調査と比較できるように、質問項目の調整を図った。調査の項目は以下の通り。
 - ・基本属性 (8項目)
 - ・仕事 (7項目)
 - ・住居 (4項目)
 - ・保健・医療 (8項目)
 - ・生活・意識 (15項目)
 - ・行政サービス (9項目)
 - ・日本語の学習 (7項目)
 - ・子供の教育 (6項目)
 - ・将来設計 (2項目)
5. 留意点 今回の調査では、外国人登録からの無作為抽出調査を実施するとともに、南米日系人の子供たちを通して地域社会とより強い接点をもっている保護者に対する調査も併せて実施した。さらに、従来からの調査方法を踏襲し、面接による調査も実施するなど、多面的な調査となるよう配慮した。

目次

はじめに.....	i		
調査の概要	ii		
調査結果及び分析			
【基本属性】	1	【保健・医療】.....	10
1 国籍		20 健康保険への加入状況	
2 性別		21 健康保険に加入していない理由	
3 年齢		22 病気やけがへの対処方法	
4 本国での家族構成		23 治療時の問題点	
5 日本での家族構成		24 健康診査	
6 日本での滞在期間		25 予防接種	
7 浜松での滞在期間		26 健康相談	
8 通算来日回数		27 必要な医療サービス	
【仕事】.....	4	【生活・意識】.....	14
9 来日の目的		28 1か月の休日数	
10 就労業種		29 休日の形態	
11 平均月収		30 現在の生活の満足度	
12-1 日本での転職の有無		31 日本人とのつきあい	
12-2 日本での転職回数		32 同国人とのつきあい	
13 転職理由		33 今後のつきあい方	
14 仕事に関する悩み		34 地域行事への参加状況	
15 仕事で困った時の相談先		35 自治会への加入状況	
【住居】.....	8	36 加入していない理由	
16 現在の住まい		37 差別や偏見	
17 住居についての満足度		38 差別や偏見の内容	
18 満足していない理由		39 悩みや心配事	
19 住居に関するトラブル		40 困った時の相談相手	
		41 利用するメディア	
		42 日本人意識	

【行政サービス】.....	20	【子供の教育】.....	27
43 市政サービスの認知度		59 子供の通っている学校	
44 市の施設の利用状況		60 学校に通わない理由	
45 国際交流センター利用の有無		61 子供の日本語能力	
46 国際交流センター利用内容		62 子供の母国語教育の必要性	
47-1 国際交流センター利用可能な日		63 子供の教育で困ったこと	
47-2 国際交流センター利用可能な時間帯		64 教育で困った時の相談先	
48 市役所の窓口での対応			
49 不親切(不便)な点		【将来設計】.....	30
50 行政へ意見を伝える手段		65 将来の計画	
51 行政サービスへの要望		66 日本に定住する際の問題点	
【日本語の学習】.....	24		
52 日本語能力			
53 学習の有無			
54 学習希望の有無			
55 学習したくない理由			
56 学習の場所		結 び	31
57 希望する学習場所			
58 希望する学習日		調査法別集計	33

調査結果及び分析

【基本属性】

外国人市民の定住化がさらに進む。

90年の入管法改正後10年を経過し、外国人市民の様相にも変化が見られる。

滞在期間については「日本での滞在期間が7年以上」とする回答が45.5%で最多となっている。これは、滞在期間の長期化傾向を端的に示すものである。また、浜松市での滞在期間も7年以上が28.1%と最も多くなっている。通算来日回数（休暇などの一時的な往復を除く）は、「初めて」が51.5%、「2回目」が33.8%であり、本国との間を頻繁に行き来するというよりは、来日後は日本に落ち着く様子が伺われる。

平均年齢は34.9歳であり、96年の前回調査の27.2歳よりも7.7歳上昇している。

家族形態としては「夫婦と子供」の世帯が66.3%で最も多く、「単身」との回答は5.3%である。前回調査の「単身」は22.6%であり、これまでの単身での滞在から家族での滞在へとその家族形態が移行しているものと思われる。

回答者の90%近くをブラジル人が占め、年齢は30代が50%近くとなっている。また、面接調査では20代が50%となっているように、調査の方法によるばらつきがみられるところもある。しかし、全体としては滞在期間の長期化は顕著であり、「家族で滞在し、日本に腰を落ち着ける中堅世代」が増加していると思われる。

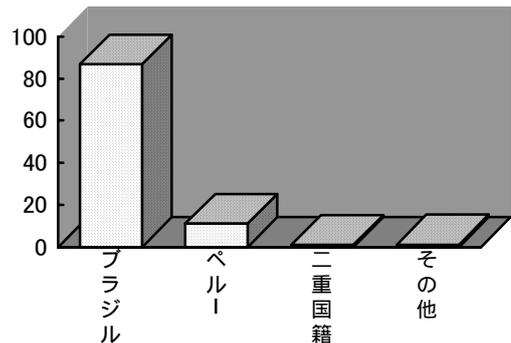
これは来日の目的である「仕事」とともに、日常生活に欠かせない「保健医療」や「教育」への具体的な要望となって提示されてきているように思われる。

1 国籍

設問 「あなたの国籍は。」

ブラジル	447 (86.8%)
ペルー	57 (11.1%)
二重国籍	5 (1.0%)
その他	6 (1.2%)

(N=515)

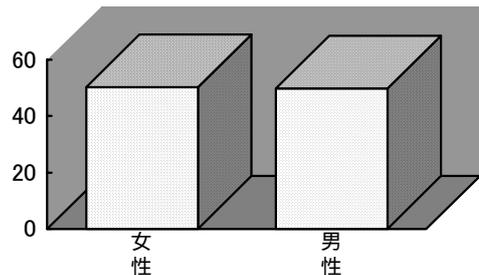


2 性別

設問 「あなたの性別は。」

女性	252 (50.2%)
男性	250 (49.8%)

(N=502)

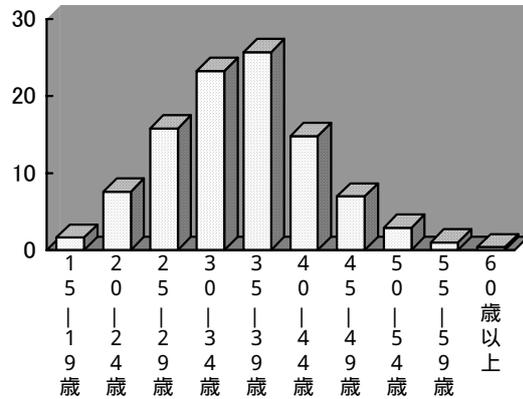


3 年齢

設問 「あなたの年齢は。」

15～19 歳	8 (1.6%)
20～24 歳	39 (7.6%)
25～29 歳	81 (15.8%)
30～34 歳	119 (23.2%)
35～39 歳	132 (25.7%)
40～44 歳	76 (14.8%)
45～49 歳	36 (7.0%)
50～54 歳	15 (2.9%)
55～59 歳	5 (1.0%)
60 歳以上	2 (0.4%)

(N=513)

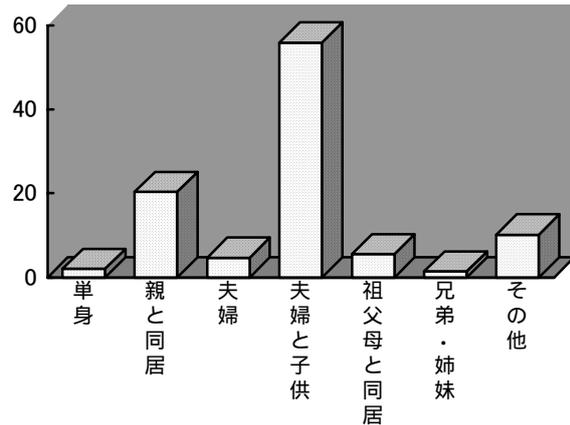


4 本国での家族構成

設問 「本国での家族構成を教えてください。」

単身	10 (2.0%)
親と同居	103 (20.3%)
夫婦	24 (4.7%)
夫婦と子供	284 (55.9%)
祖父母とも同居	28 (5.5%)
兄弟、姉妹	7 (1.4%)
その他	52 (10.2%)

(N=508)

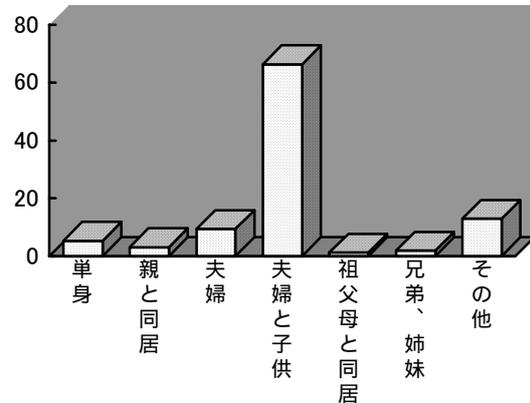


5 日本での家族構成

設問 「日本での家族構成を教えてください。」

単身	27 (5.3%)
親と同居	16 (3.1%)
夫婦	48 (9.4%)
夫婦と子供	339 (66.3%)
祖父母とも同居	6 (1.2%)
兄弟、姉妹	9 (1.8%)
その他	66 (12.9%)

(N=511)

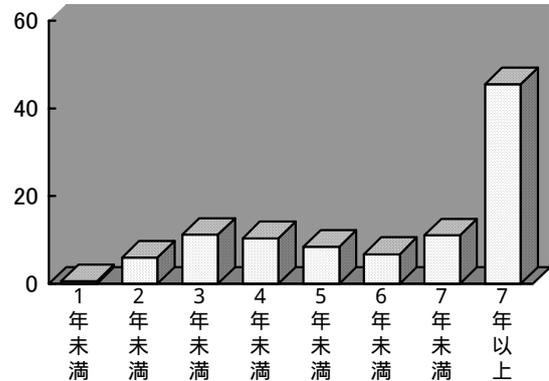


6 日本での滞在期間

設問 「日本にはどのくらいの期間住んでいますか。」

1年未満	3(0.6%)
1年－2年未満	30(6.0%)
2年－3年未満	56(11.2%)
3年－4年未満	52(10.4%)
4年－5年未満	42(8.4%)
5年－6年未満	34(6.8%)
6年－7年未満	55(11.0%)
7年以上	227(45.5%)

(N=499)

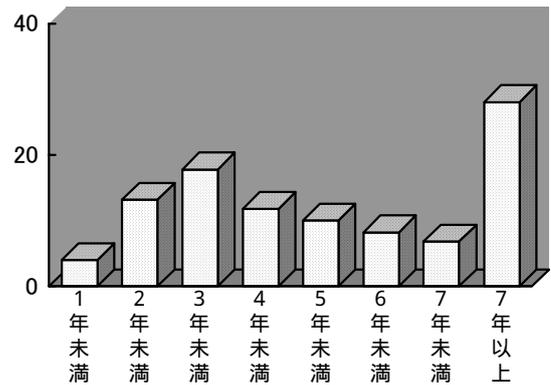


7 浜松での滞在期間

設問 「浜松市にはどのくらいの期間住んでいますか。」

1年未満	20(4.0%)
1年－2年未満	66(13.2%)
2年－3年未満	89(17.8%)
3年－4年未満	59(11.8%)
4年－5年未満	50(10.0%)
5年－6年未満	41(8.2%)
6年－7年未満	34(6.8%)
7年以上	140(28.1%)

(N=499)

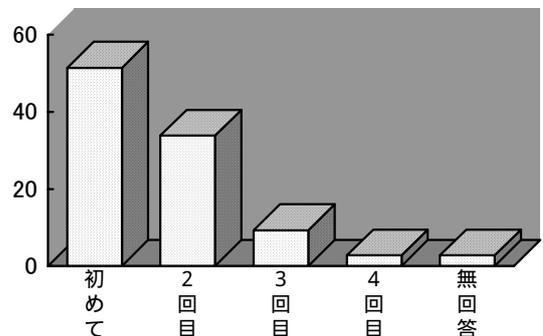


8 通算来日回数

設問 「今回で通算何回目の来日ですか。」

初めて	265(51.5%)
2回目	174(33.8%)
3回目	48(9.3%)
4回目	14(2.7%)
その他	0(0.0%)
無回答	14(2.7%)

(N=515)



【仕事】

多様化しつつある来日目的。

就労業種も拡大。

来日目的としては「母国の治安や経済状態が悪いから」が54.5%と最も多く、「貯蓄」の29.6%を上回っている。さらに、「母国で適当な職を見つけられない」の15.2%が続いている。生活の基盤を母国以外に置く場所としての滞在という意識が強くなっているものと思われる。

就労業種としては、「自動車関係の製造業」が51.9%「冷凍食品、弁当などの食品関係」12.1%、「電気関係の製造業」が8.8%となっており、製造業が中心となっているが、レストランなど、製造業以外の産業への従事者も増加している。また、「その他」12.7%のなかには多くの就労職種があげられており、就労職種の拡大傾向が推察される。

転職経験については、80%以上が有しているが、その回数は「3回」が27.3%、「2回」が17.9%、1回が17.0%となっている。転職の理由としては、「高い賃金を求めて」が37.8%で最も多く、「雇用期間の終了」が19.0%、「残業の減少」13.7%、「住みよい場所を求めて」12.8%となっている。就労形態による認識の違いも推測されるが、「高い賃金を求めて激しく転職を繰り返す」層とともに、「数回の転職のなかで安定した職場を見つける」層も出てきているものと思われる。

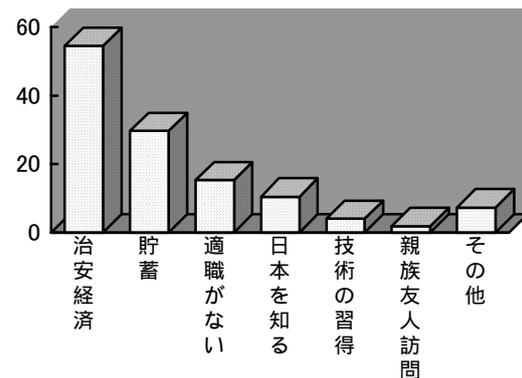
「仕事に関する悩みトラブル」としては、「特に無い」との回答が38.1%で最も多いが、「賃金が安い」30.3%や「日本人より先に解雇される」27.5%が上位にあげられている。また、不況の影響か「残業が減った」との回答も20.3%ある。

9 来日の目的

設問 「来日の目的を教えてください。」

母国の治安や経済状態が悪いから	276(54.5%)
貯蓄	150(29.6%)
母国で適当な職を見つけられない	77(15.2%)
日本を知るため	53(10.5%)
技術の習得	20(4.0%)
親族、友人訪問	9(1.8%)
その他	37(7.3%)

(N=622。複数回答)

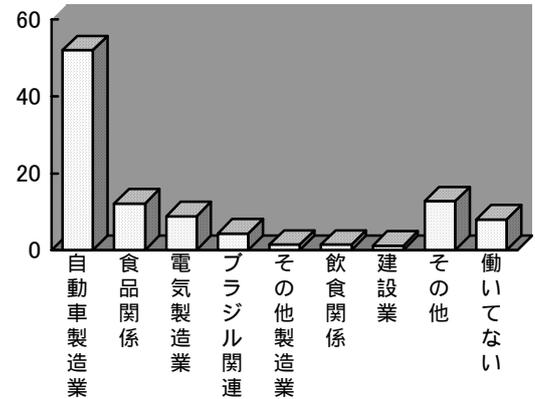


10 就労業種

設問 「現在、働いているところを教えてください。」

自動車関係の製造業	265 (51.9%)
冷凍食品、弁当など食品関係	62 (12.1%)
電気関係の製造業	45 (8.8%)
ブラジル関連のサービス業	22 (4.3%)
その他の製造業	7 (1.4%)
レストランなど飲食関係	7 (1.4%)
建設業	6 (1.2%)
その他	65 (12.7%)
働いていない	41 (8.0%)

(N=520。複数回答)

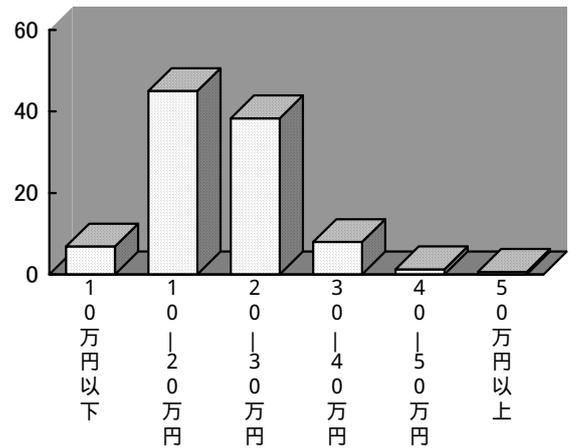


11 平均月収

設問 「あなたの平均月収を教えてください。」

10万円以下	32 (6.9%)
10万円～20万円	210 (45.0%)
20万円～30万円	179 (38.3%)
30万円～40万円	37 (7.9%)
40万円～50万円	6 (1.3%)
50万円以上	3 (0.6%)

(N=467)

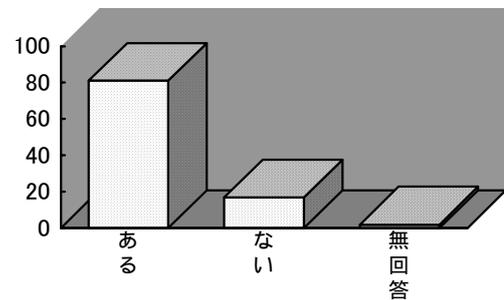


12-1 日本での転職の有無

設問 「日本で転職をしたことがありますか。」

ある	418 (81.2%)
ない	87 (16.9%)
無回答	10 (1.9%)

(N=515)

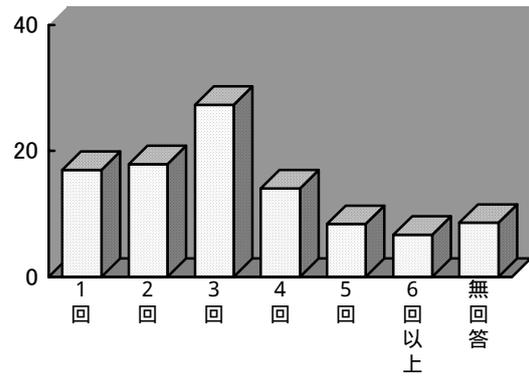


12-2 日本での転職回数

設問 「日本での転職回数は何回ですか。」

1回	71 (17.0%)
2回	75 (17.9%)
3回	114 (27.3%)
4回	59 (14.1%)
5回	35 (8.4%)
6回以上	28 (6.7%)
無回答	36 (8.6%)

(N=418)

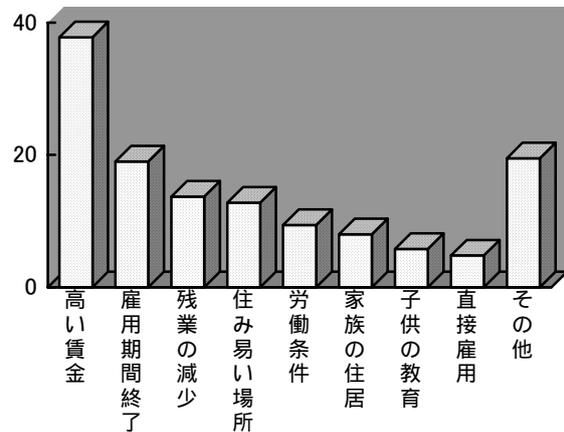


13 転職理由

設問 「転職の理由を教えてください。」

高い賃金を求めて	157 (37.8%)
雇用期間の終了	79 (19.0%)
残業の減少	57 (13.7%)
住みやすい場所を求めて	53 (12.8%)
厳しい労働条件	39 (9.4%)
家族の住居のため	33 (8.0%)
子供の教育のため	24 (5.8%)
直接雇用に変えるため	20 (4.8%)
その他	81 (19.5%)

(N=543。複数回答)

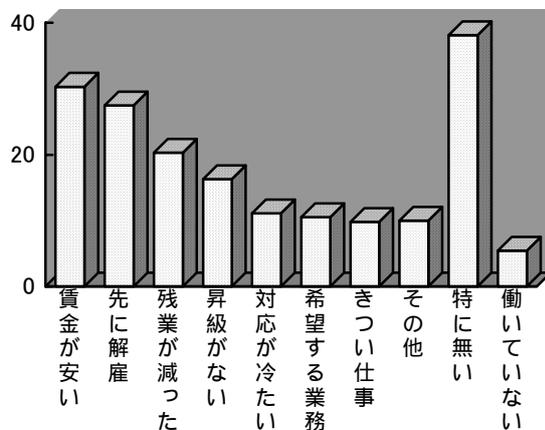


14 仕事に関する悩み

設問 「仕事に関する悩み事やトラブルについて教えてください。」

賃金が安い	139 (30.3%)
日本人より先に解雇される	126 (27.5%)
残業が減った	93 (20.3%)
昇級がない	75 (16.3%)
上司、同僚の対応が冷たい	51 (11.1%)
希望する業務につけない	48 (10.5%)
きつい仕事を回される	45 (9.8%)
仕事をみつけれられない	8 (1.7%)
その他	38 (8.3%)
特に無い	175 (38.1%)
働いていない	25 (5.4%)

(N=823。複数回答)

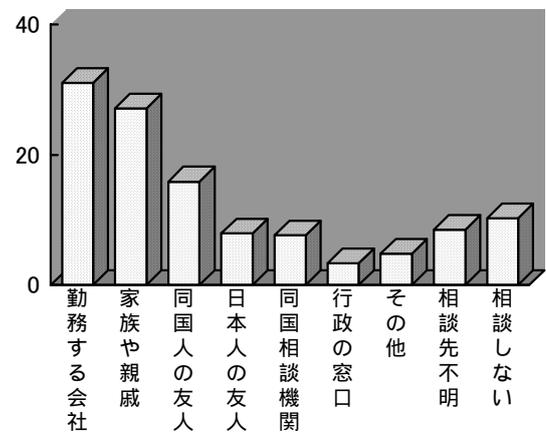


15 仕事で困った時の相談先

設問 「仕事に関して困った時はどこに相談しますか。」

勤務する会社	150 (31.0%)
家族や親戚	131 (27.1%)
同国人の友人知人	77 (15.9%)
日本人の友人知人	38 (7.9%)
同国人の団体や相談機関	37 (7.6%)
行政の窓口	16 (3.3%)
その他	23 (4.8%)
相談先がわからない	41 (8.5%)
どこにも相談しない	50 (10.3%)

(N=563。複数回答)



【住 居】

民間アパート、公営住宅、会社契約のアパートがそれぞれ約3割、概して満足度は高い。

住居に対する満足度は「満足」が50.7%、「やや満足」が35.3%であり、概して満足度は高いといえる。特に、「公営住宅」との回答が28.0%あり「民間のアパート」31.1%に次いでいる。公営住宅への外国人入居者が多いことと、居住地域が比較的分散していることが本市の特徴となっている。

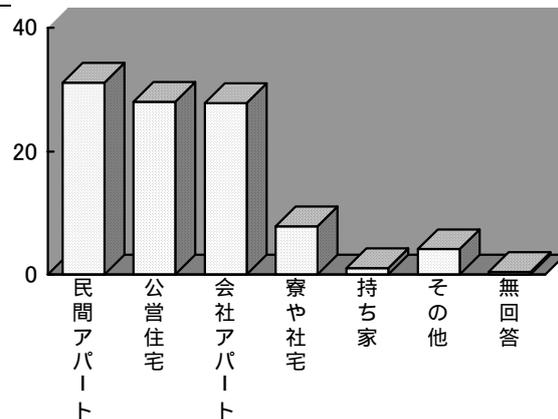
他方、民間アパートへの入居の際のトラブルも報告されている。住居に関するトラブルの回答「その他」には「特に無い」との回答31も含まれている。

16 現在の住まい

設問 「現在のお住まいについて教えてください。」

民間のアパート	160 (31.1%)
公営住宅	144 (28.0%)
会社契約のアパート	143 (27.8%)
会社の寮や社宅	40 (7.8%)
持ち家	5 (1.0%)
その他	21 (4.1%)
無回答	2 (0.4%)

(N=515)

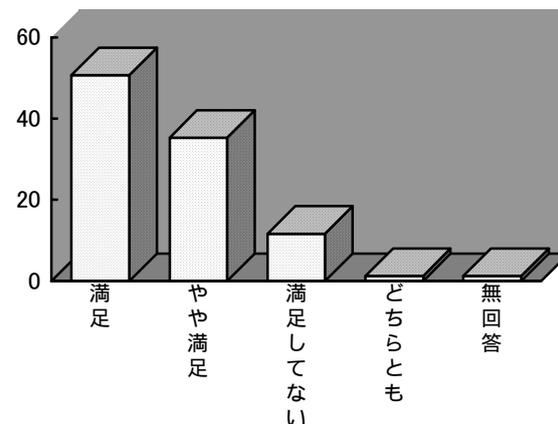


17 住居についての満足度

設問 「現在のお住まいに満足していますか。」

満足	261 (50.7%)
やや満足	182 (35.3%)
満足していない	60 (11.7%)
どちらともいえない	6 (1.2%)
無回答	6 (1.2%)

(N=515)

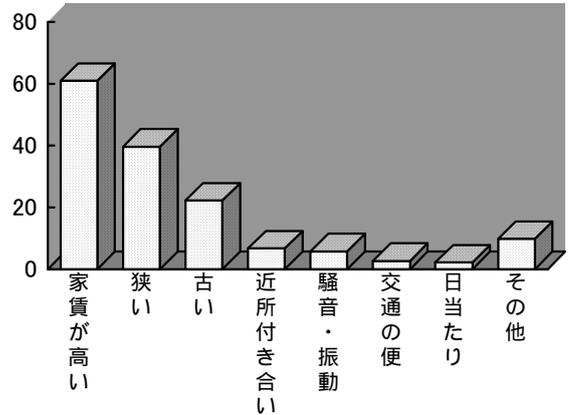


18 満足していない理由

設問 「満足していないことはどんなことですか。」

家賃が高い	137 (60.9%)
狭い	89 (39.6%)
古い	50 (22.2%)
近所付き合いがたいへん	15 (6.7%)
騒音、振動が気になる	13 (5.8%)
交通の便が悪い	6 (2.7%)
日当たりがよくない	5 (2.2%)
その他	22 (9.8%)

(N=337。複数回答)

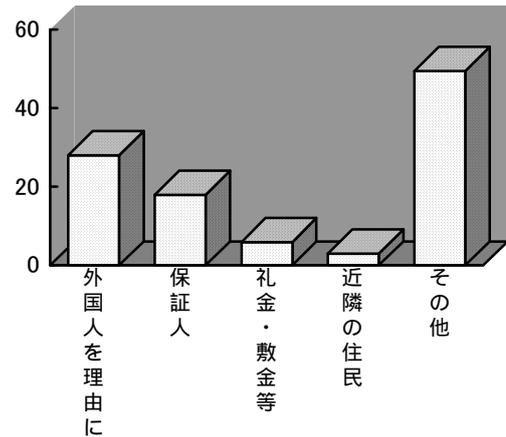


19 住居に関するトラブル

設問 「住居に関するトラブルについて教えてください。」

外国人であることを理由に斡旋や入居を断られた	56 (28.0%)
保証人が見つからなかった	36 (18.0%)
礼金、敷金等の習慣を知らずトラブルがあった	12 (6.0%)
近隣の住民とうまくやっていない	6 (3.0%)
その他	99 (49.5%)

(N=209。複数回答)



【保健・医療】

滞在期間の長期化や家族滞在者の増加により、保健医療の必要度が高くなっている。

健康保険への加入状況としては、「国民健康保険」18.1%、「社会保険」16.5%である。「入っていない」が50.9%であり、その理由として「事業所で社会保険に加入させてくれない」、「金銭的負担が大きい」などがあげられている。社会保険に加入する場合、年金について免除申請ができず、セット加入が必要であり、負担感を感じるため未加入になる場合も多いと思われる。

病気や怪我をした時の対処方法は、「すぐ医者に行く」が66.5%であり、「薬を買って飲む」が18.4%となっている。「我慢して様子を見る」は5.5%にすぎない。

治療を受ける時困ることとして、「医療費の支払いが高額」33.3%、「診療時にことばがわからない」23.1%があげられている。

希望する医療サービスとしては「病院での通訳」58.9%、が最も多く、「無料健康診断の実施」40.9%、「医療費の互助制度」40.5%がこれに次いでいる。

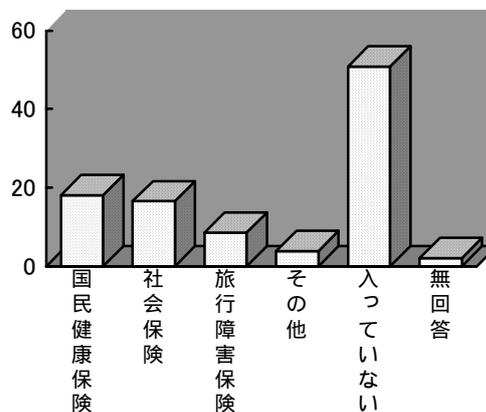
市の予防接種については「受診したことがある」50.7%、「もっと受診の機会を増やしてほしい」21.8%であり、外国人市民への周知がかなり進んでいる。他方、市の健康診断については「知らない」との回答が42.8%、市の健康診断についても「知らない」が51.1%となっている。今後、健康の維持管理のために一層の周知に努める必要がある。

20 健康保険への加入状況

設問 「健康保険への加入状況を教えてください。」

国民健康保険	93(18.1%)
社会保険	85(16.5%)
旅行障害保険	44(8.5%)
その他	20(3.9%)
入っていない	262(50.9%)
無回答	11(2.1%)

(N=515)

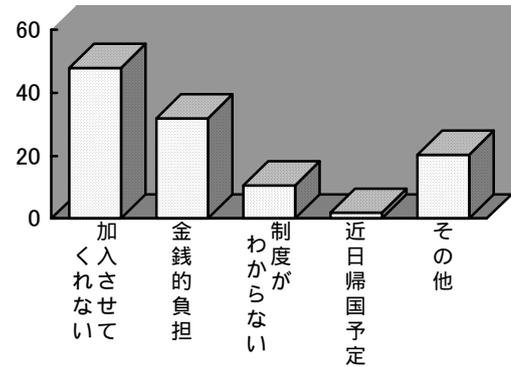


21 健康保険に加入していない理由

設問 「健康保険に加入していないのはなぜですか。」

事業所で加入させてくれない	122 (47.8%)
金銭的負担が大きい	81 (31.8%)
日本の保険制度がわからない	27 (10.6%)
近日帰国予定	5 (2.0%)
その他	52 (20.4%)

(N=287。複数回答)

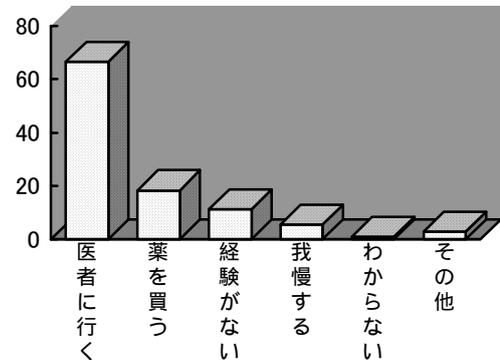


22 病気やけがへの対処方法

設問 「病気やけがをした時、どうしますか。」

すぐ医者に行く	336 (66.5%)
薬を買って飲む	93 (18.4%)
病気やけがの経験がない	57 (11.3%)
我慢して様子を見る	28 (5.5%)
わからない	5 (1.0%)
その他	14 (2.8%)

(N=533。複数回答)

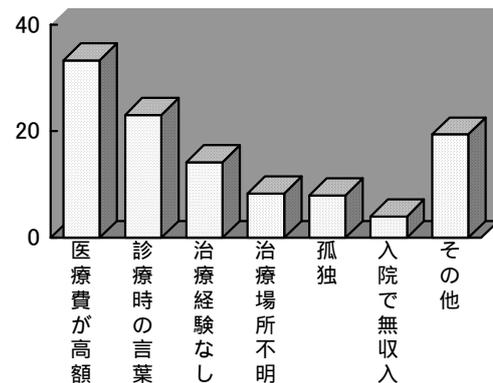


23 治療時の問題点

設問 「病気やけがで治療を受ける時困ったことは何ですか。」

医療費の支払いが高額	117 (33.3%)
診療時にことばがわからない	81 (23.1%)
治療を受けたことがない	50 (14.2%)
どこで治療を受けたらいいのかわからない	29 (8.3%)
母国人の看護などが無く孤独	28 (8.0%)
入院で収入が無くなる	14 (4.0%)
その他	68 (19.4%)

(N=387。複数回答)

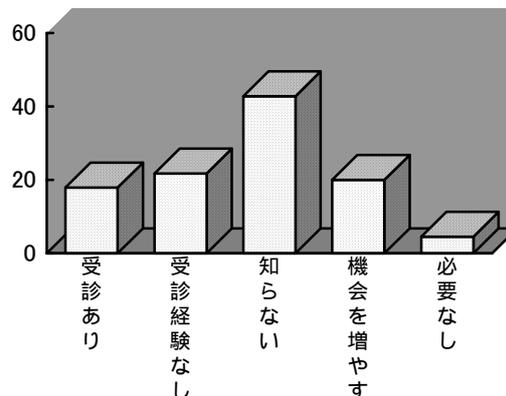


24 健康診査

設問 「市の健康診査について教えてください。」

受診したことがある	87 (17.9%)
知っているが受けたことはない	106 (21.8%)
知らない	208 (42.8%)
もっと受診の機会を増やしてほしい	97 (20.0%)
必要を感じていない	22 (4.5%)

(N=520。複数回答)

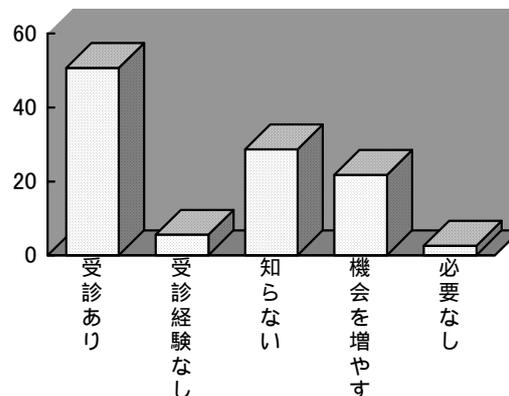


25 予防接種

設問 「市の予防接種について教えてください。」

受診したことがある	237 (50.7%)
知っているが受けたことはない	26 (5.6%)
知らない	134 (28.7%)
もっと受診の機会を増やしてほしい	102 (21.8%)
必要を感じていない	12 (2.6%)

(N=511。複数回答)

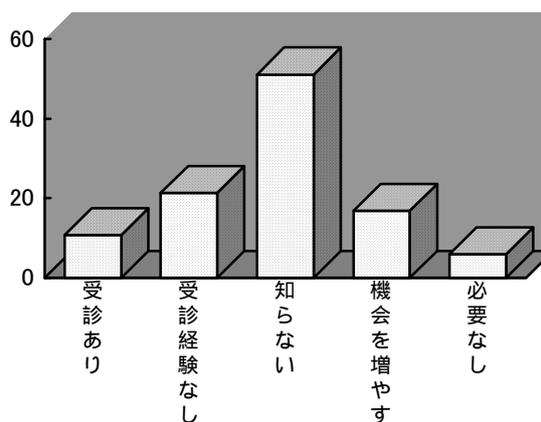


26 健康相談

設問 「市の健康相談について教えてください。」

受診したことがある	51 (10.8%)
知っているが受けたことはない	101 (21.3%)
知らない	242 (51.1%)
もっと受診の機会を増やしてほしい	80 (16.9%)
必要を感じていない	28 (5.9%)

(N=502。複数回答)

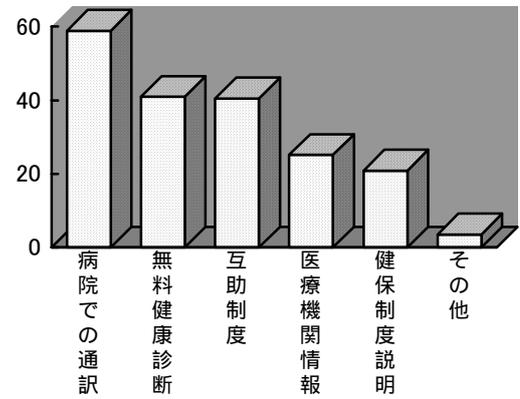


27 必要な医療サービス

設問 「どのような医療サービスが必要ですか。」

病院での通訳	287 (58.9%)
無料健康診断の実施	199 (40.9%)
医療費の互助制度	197 (40.5%)
病院など医療機関についての 情報	122 (25.1%)
健康保険制度についての説明	102 (20.9%)
その他	17 (3.5%)

(N=924。複数回答)



【生活・意識】

現在の日本の生活には満足。地域と関わっていく意思もある。

医療、教育が当面の課題

現在の生活に関しては「やや満足」55.7%、「満足」35.1%であり90%以上が肯定的回答を寄せている。これは基本属性でみたように、長期にわたる滞在者層の増加と同じ文脈でとらえられる。

日本人との関係も「あいさつ程度」40.9%「ときどき立ち話をする」36.2%「一緒に何かしたり相談にのったりする」12.1%など、何らかのつきあいを持つとの回答が大多数を占めている。さらに、今後のつきあい方について「広げていきたい」47.0%、「広げていきたいが方法がわからない」23.7%であり、地域と関わっていく意思を感じることができる。

また、地域の行事への参加については「道路や公園の清掃」39.8%、「地区のまつり」20.2%、「スポーツ大会」12.7%が上位に挙げられ、約60%が参加経験を持っている。

自治会への加入も27.8%にのぼる。加入していない理由としては「自治会を知らない」が41.3%で最も多い。外国人市民の地域社会への参加もかなり進んで来ているとみることができる。

差別や偏見については「ときどきある」が47.4%で最も多く、「ない」17.7%がこれに次いでいる。どのような時に差別や偏見を感じるか、との問いに対しては「じろじろ見られる」54.3%、「住居を捜す時」24.5%、「無視される」23.5%との回答が寄せられている。

悩みや心配事として「子供の教育や将来」が58.4%、「家族や自分の健康」33.5%が上位を占めており、子供の教育、医療について深い関心が寄せられていることがわかる。また、「母国の治安や経済状態」とする回答も38.8%ある。

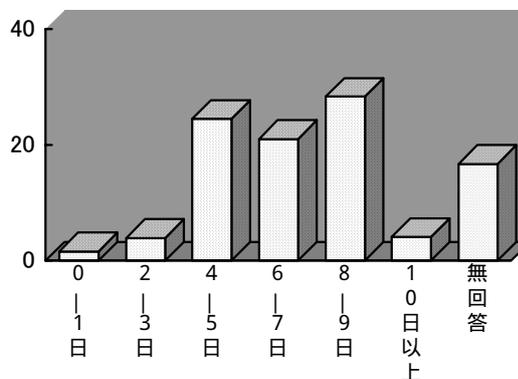
よく利用するメディアや情報としては「母国語新聞」が61.6%、「母国語ラジオ、テレビ」が58.8%となっており、母国語メディアの普及を背景にそこから多くの情報を得ている様子も伺われる。

28 1か月の休日数

設問 「1か月に休める日はおよそ何日ありますか。」

0－1日	8(1.6%)
2－3日	20(3.9%)
4－5日	126(24.5%)
6－7日	108(21.0%)
8－9日	146(28.3%)
10日以上	21(4.1%)
無回答	86(16.7%)

(N=515)

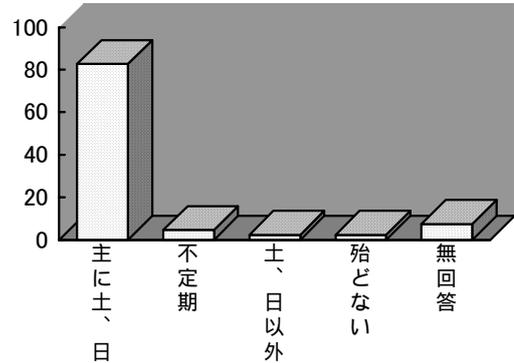


29 休日の形態

設問 「休日の形態はどうか。」

主に土曜日、日曜日	426(82.7%)
不定期	24(4.7%)
土曜日、日曜日以外	13(2.5%)
ほとんど休みはない	13(2.5%)
無回答	39(7.6%)

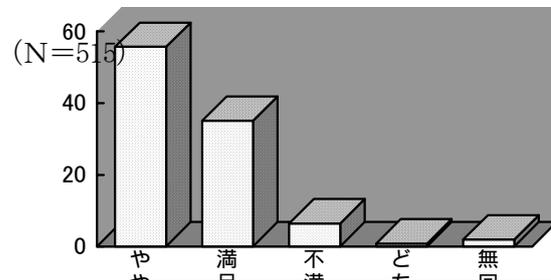
(N=515)



30 現在の生活の満足度

設問 「現在の生活に満足していますか。」

やや満足	287(55.7%)
満足	181(35.1%)
不満	33(6.4%)
どちらともいえない	4(0.8%)
無回答	10(1.9%)

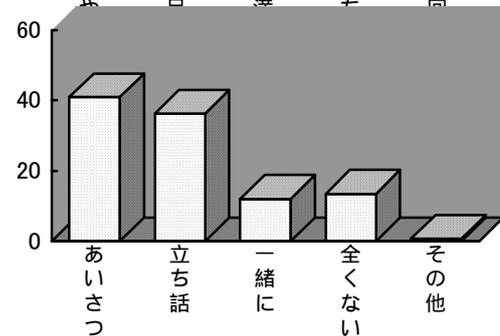


31 日本人とのつきあい

設問 「日本人とのつきあいはどうか。」

あいさつする程度	209(40.9%)
ときどき立ち話をする程度	185(36.2%)
一緒に何かしたり相談にのったりする	62(12.1%)
全くつきあいはない	69(13.5%)
その他	4(0.8%)

(N=529。複数回答)

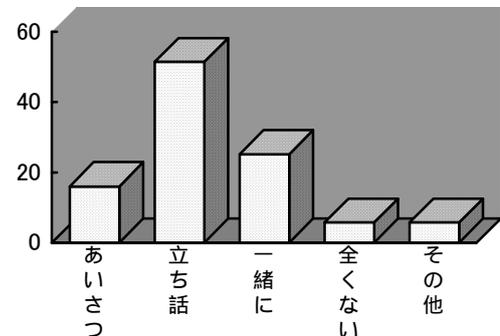


32 同国人とのつきあい

設問 「同国人とのつきあいはどうか。」

あいさつする程度	81(16.0%)
ときどき立ち話をする程度	259(51.3%)
一緒に何かしたり相談にのったりする	127(25.1%)
全くつきあいはない	29(5.7%)
その他	29(5.7%)

(N=525。複数回答)

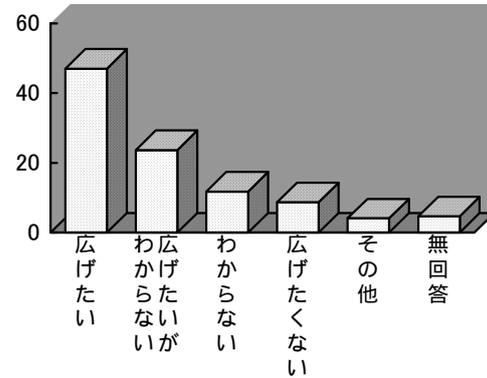


33 今後のつきあい方

設問 「今後のつきあい方について教えてください。」

広げていきたい	242 (47.0%)
広げていきたいがどうしていいかわからない	122 (23.7%)
わからない	61 (11.8%)
特に広げたいとは思わない	45 (8.7%)
その他	21 (4.1%)
無回答	24 (4.7%)

(N=515)

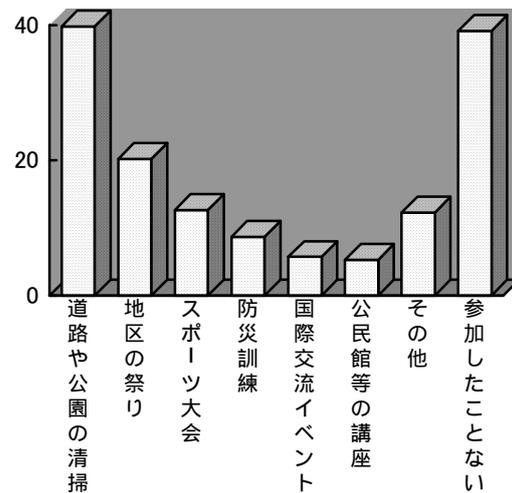


34 地域行事への参加状況

設問 「次のような地域の行事等に参加したことがありますか。」

道路や公園の清掃	197 (39.8%)
地区の祭り	100 (20.2%)
スポーツ大会	63 (12.7%)
防災訓練	43 (8.7%)
国際交流イベント	28 (5.7%)
公民館等の講座やイベント	26 (5.3%)
その他	61 (12.3%)
参加したことはない	194 (39.2%)

(N=712。複数回答)

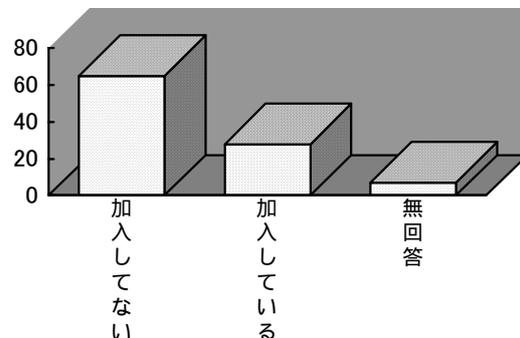


35 自治会への加入状況

設問 「自治会に加入していますか。」

加入していない	335 (65.0%)
加入している	143 (27.8%)
無回答	37 (7.2%)

(N=515)

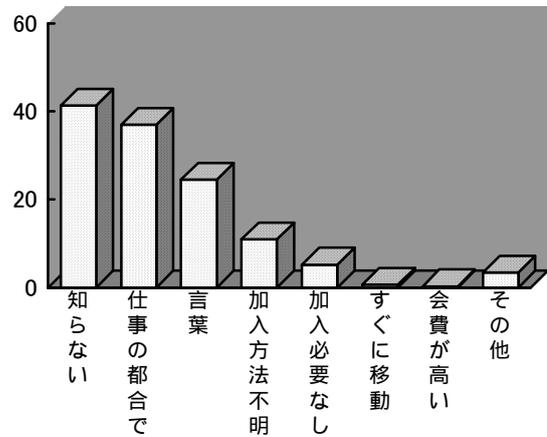


36 加入していない理由

設問 「加入していない理由を教えてください。」

自治会を知らない	135 (41.3%)
仕事などの都合で	121 (37.0%)
ことばがわからない	80 (24.5%)
加入方法がわからない	36 (11.0%)
加入の必要を感じない	17 (5.2%)
すぐに移動していくから	2 (0.6%)
会費が高い	1 (0.3%)
その他	11 (3.4%)

(N=403。複数回答)

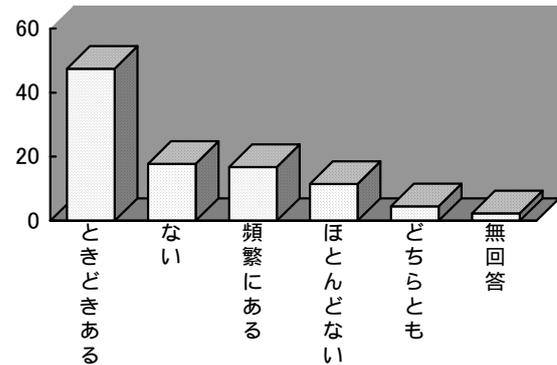


37 差別や偏見

設問 「日本で差別や偏見を感じたことがありますか。」

ときどきある	244 (47.4%)
ない	91 (17.7%)
頻繁にある	86 (16.7%)
ほとんどない	59 (11.5%)
どちらともいえない	23 (4.5%)
無回答	12 (2.3%)

(N=515)

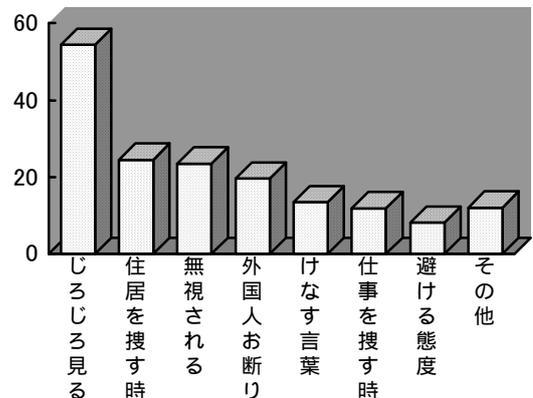


38 差別や偏見の内容

設問 「差別や偏見を感じるのはどのような時ですか。」

じろじろ見られる	233 (54.3%)
住居を捜す時	105 (24.5%)
無視される	101 (23.5%)
外国人お断りの表示の存在	84 (19.6%)
けなすようなことばをかけられる	58 (13.5%)
仕事を捜す時	51 (11.9%)
バスや電車の中で自分を避けるような態度をされる	35 (8.2%)
その他	52 (12.1%)

(N=719。複数回答)

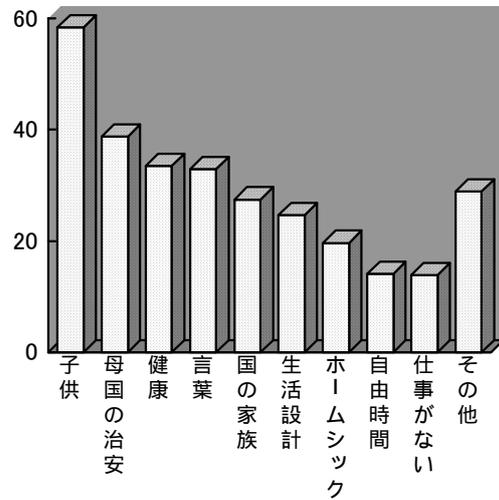


39 悩みや心配事

設問 「あなたの悩みや心配事について教えてください。」

子供の教育や将来について	293 (58.4%)
母国の治安や経済状態	195 (38.8%)
家族や自分の健康	168 (33.5%)
言葉が通じない	165 (32.9%)
母国の家族のこと	138 (27.5%)
将来の生活設計	124 (24.7%)
ホームシック	99 (19.7%)
自由時間がない	71 (14.1%)
仕事がない	70 (13.9%)
住居のこと	46 (9.2%)
日本の習慣があわない	44 (8.8%)
日本人の考え方があわない	25 (5.0%)
職場や地域の人間関係	15 (3.0%)
食べもの	4 (0.8%)
その他	11 (2.2%)

(N=1468。複数回答)

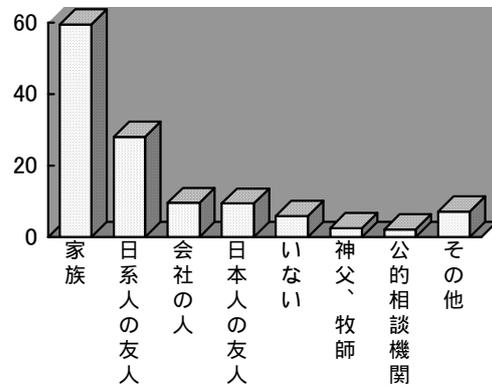


40 困った時の相談相手

設問 「困った時の相談相手はだれですか。」

家族	296 (59.4%)
日系人の友人	140 (28.1%)
会社の人	48 (9.6%)
日本人の友人	47 (9.4%)
いない	30 (6.0%)
神父、牧師	13 (2.6%)
公的相談機関	11 (2.2%)
その他	36 (7.2%)

(N=621。複数回答)

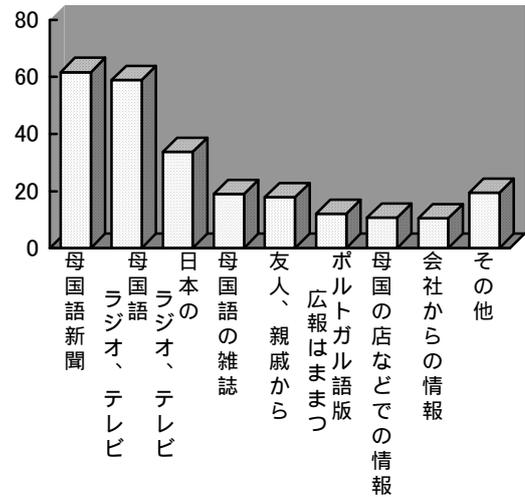


41 利用するメディア

設問 「よく利用するメディアや情報は何か。」

母国語新聞	308 (61.6%)
母国語ラジオ、テレビ	294 (58.8%)
日本のラジオ、テレビ	169 (33.8%)
母国語の雑誌	95 (19.0%)
友人、親戚からの情報	89 (17.8%)
ポルトガル語版広報はままつ	60 (12.0%)
母国の店などでの情報	53 (10.6%)
会社からの情報	52 (10.4%)
インターネット	38 (7.6%)
国際交流センターの広報紙	29 (5.8%)
日本の新聞	18 (3.6%)
その他	12 (2.4%)

(N=1217。複数回答)

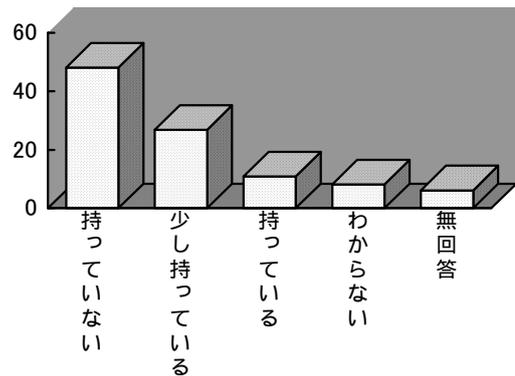


42 日本人意識

設問 「日本人としての意識を持っていますか。」

持っていない	247 (48.0%)
少し持っている	138 (26.8%)
持っている	56 (10.9%)
わからない	42 (8.2%)
無回答	32 (6.2%)

(N=515)



【行政サービス】

行政の対応は概ね良好との評価。

多方面の分野における母国語での情報提供を期待。

知っている行政サービスとしては「公営住宅」62.2%、「ポルトガル語版広報はままつ」60.6%が上位を占めている。次いで「予防接種」などの保健医療関連の事業が続いている。

国際交流センターを「利用したことがある」との回答は13.8%、「知っているが利用したことはない」が30.3%となっている。利用内容としては、日本語教室や国際交流イベントへの参加、情報を得るためとの回答が上位にあげられている。

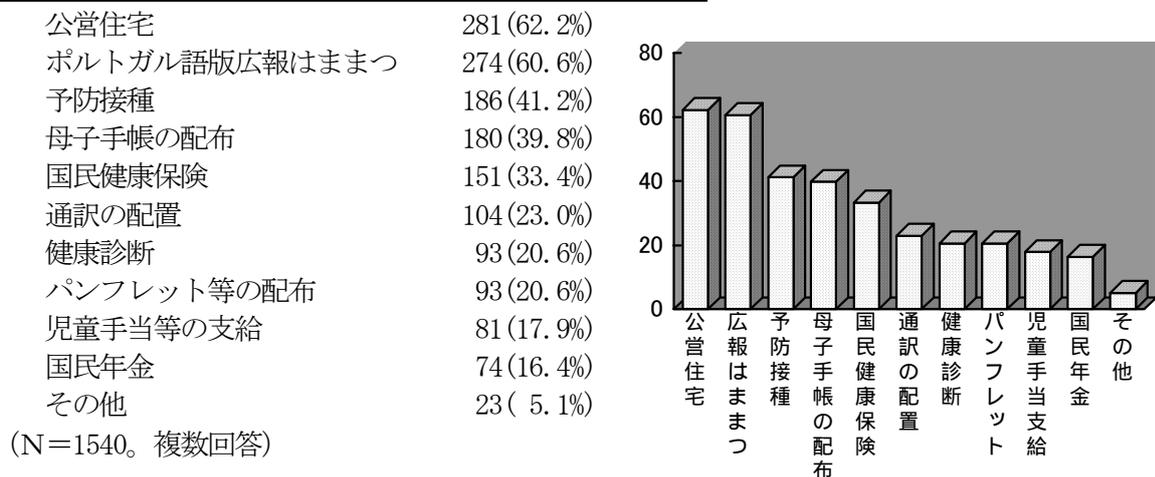
外国人の意見を行政に伝えるための手段としては、「アンケート調査」や「行政と外国人の代表が参加する会議」が有効であるとの回答が上位を占めており、何らかの形で意見を伝えていきたいとの意向をみることができる。

市役所の窓口での対応は「普通」52.6%「親切」36.9%であり、約90%から肯定的な回答が寄せられている。不便な点としては、言葉の問題をあげる意見が多く60%以上となっている。

希望する行政サービスとしては、「母国語による医療薬事情報の提供」46.7%「母国語での行政サービス情報の提供」36.3%「病院への通訳の配置」35.9%となっており、ここでも保健医療に関する希望が多い。また、生活相談の充実や母国語教育、日本語教育とする回答も寄せられている。

43 行政サービスの認知度

設問 「市が行っている行政サービスを知っていますか。」



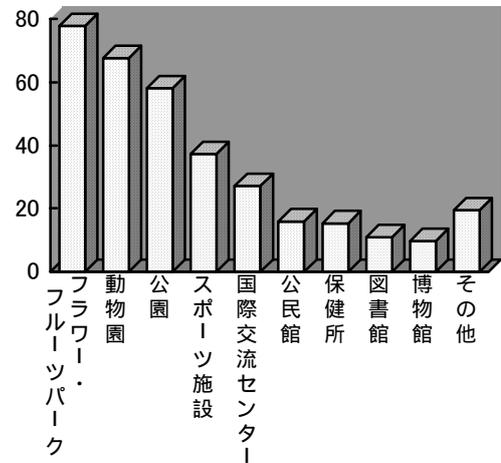
(N=1540。複数回答)

44 市の施設の利用状況

設問 「行ったことがある市の施設を教えてください。」

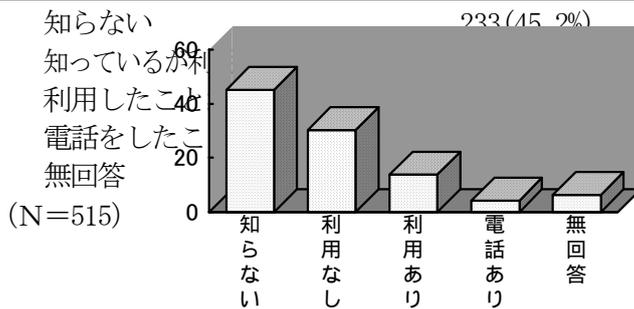
フラワー・フルーツパーク	362 (77.8%)
動物園	315 (67.7%)
公園	270 (58.1%)
スポーツ施設	173 (37.2%)
国際交流センター	126 (27.1%)
公民館	74 (15.9%)
保健所	71 (15.3%)
図書館	51 (11.0%)
博物館	45 (9.7%)
科学館	43 (9.2%)
まつり会館	24 (5.2%)
その他	23 (4.9%)

(N=1577。複数回答)



45 国際交流センター利用の有無

設問 「国際交流センターを利用したことがありますか。」

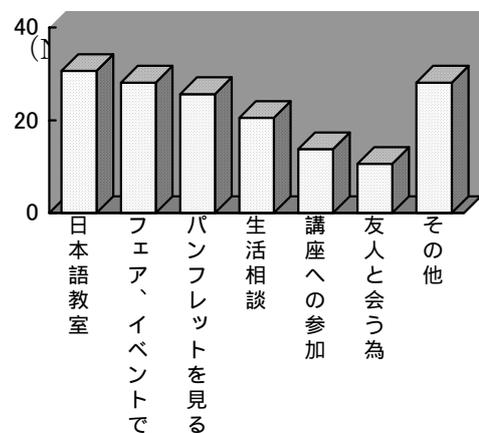


(N=515)

46 国際交流センター利用内容

設問 「どのようなことで利用しましたか。」

日本語教室	49 (30.6%)
HICEフェアやブラジル・ナ タルなどのイベントで パンフレットやチラシなどを 見るため	45 (28.1%)
生活相談	41 (25.6%)
講座、研修への参加	33 (20.6%)
友人と会うため	22 (13.8%)
その他	17 (10.6%)

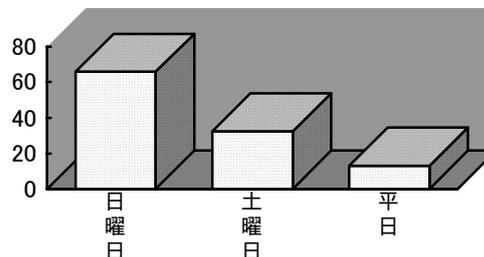


47-1 国際交流センター利用可能な日

設問 「あなたが国際交流センターを利用できる日を教えてください。」

日曜日	238 (65.7%)
土曜日	117 (32.3%)
平日	47 (13.0%)

(N=402。複数回答)

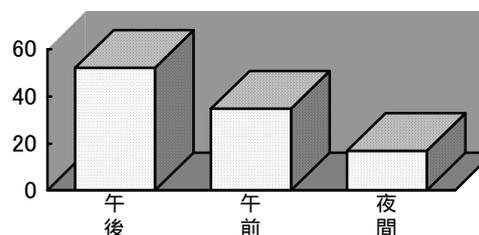


47-2 国際交流センター利用可能な時間帯

設問 「あなたが国際交流センターを利用できる時間帯を教えてください。」

午後	170 (52.1%)
午前	113 (34.7%)
夜間	55 (16.9%)

(N=338。複数回答)

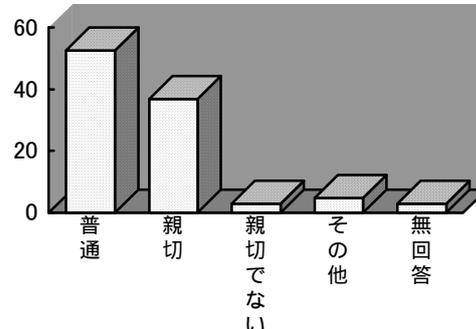


48 市役所の窓口での対応

設問 「市役所の窓口での対応をどう感じていますか。」

普通	271 (52.6%)
親切	190 (36.9%)
親切でない(あまり親切でない)	15 (2.9%)
その他	24 (4.7%)
無回答	15 (2.9%)

(N=515)

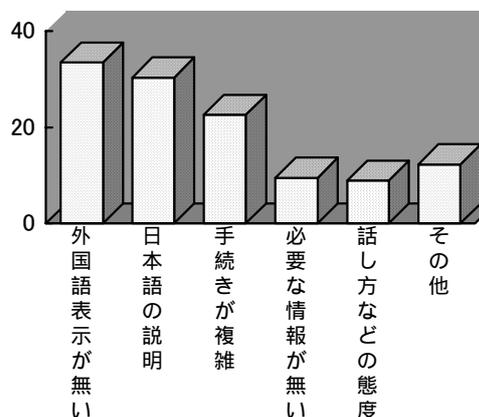


49 不親切(不便)な点

設問 「どのような点が不親切(不便)ですか。」

窓口や担当課の外国語表示が無くわかりにくい	117 (33.5%)
日本語の説明だけで内容がわからない	106 (30.4%)
手続きが複雑	79 (22.6%)
必要な情報が無い	33 (9.5%)
話し方などの態度	31 (8.9%)
その他	43 (12.3%)

(N=409。複数回答)

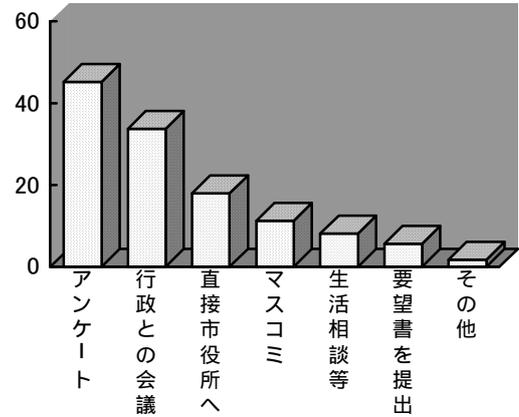


50 行政へ意見を伝える手段

設問 「外国人の意見を行政に伝えるにはどうすればよいと思いますか。」

アンケート調査を通じて意見を伝える	203(45.1%)
行政と外国人の代表が参加する会議を持つ	152(33.8%)
直接市役所に意見を伝える	81(18.0%)
マスコミを通して伝える	51(11.3%)
生活相談等を通じて伝える	37(8.2%)
要望書を提出する	25(5.6%)
その他	8(1.8%)

(N=557。複数回答)

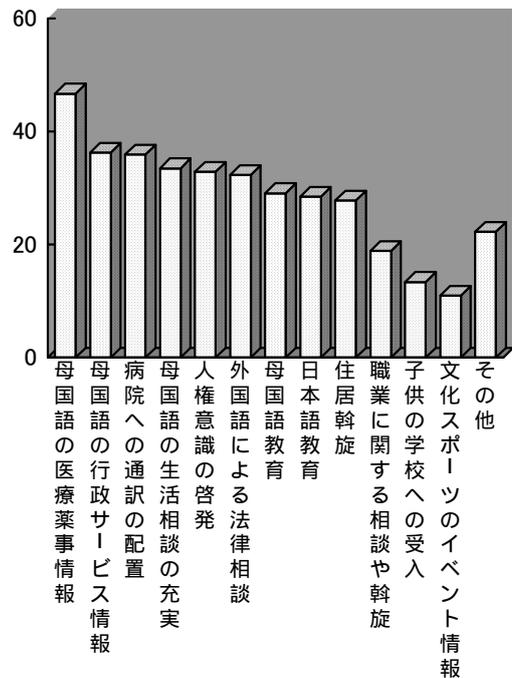


51 行政サービスへの要望

設問 「行政に望むサービスを教えてください。」

母国語による医療薬事情報の提供	220(46.7%)
母国語での行政サービス情報の提供	171(36.3%)
病院への通訳の配置	169(35.9%)
母国語による生活相談の充実	158(33.5%)
人権意識の啓発	155(32.9%)
外国語による法律相談	152(32.3%)
母国語教育	137(29.1%)
日本語教育	134(28.5%)
住居あっせん	131(27.8%)
職業に関する相談や斡旋	89(18.9%)
子供の学校への受入	63(13.4%)
文化・スポーツなどのイベント情報	52(11.0%)
娯楽・教養イベントの企画	47(10.0%)
母国情報の提供	39(8.3%)
その他	19(4.0%)

(N=1736。複数回答)



【日本語の学習】

身近な場所での日本語学習を希望

日本語能力については「何とか意思疎通できる」44.3%、「会話ならできる」15.7%、「読み書きともにできる」は13.0%であり、日本人とのコミュニケーションを図ることができるとの回答が約80%である。

日本語学習経験があるとの回答は45.0%であり、「独学」33.1%、「来日前に勉強」が28.6%となっている。「日本語ボランティア」との回答も9.2%あり、市民ボランティアによる日本語教育も広がりを見せているものと思われる。

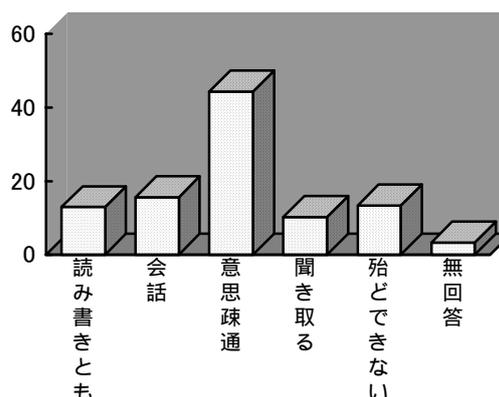
学習希望としては「機会があれば学習したい」44.1%、「学習したい」41.9%であり、90%以上が何らかの形で日本語の学習を希望している。学習場所としては「近くの公民館」や「自宅」など、身近な場所での学習を希望する回答が多い。

52 日本語能力

設問 「日本語はできますか。」

読み書きともにできる	67 (13.0%)
会話ならできる	81 (15.7%)
何とか意思疎通ができる	228 (44.3%)
少しなら聞き取ることができる	53 (10.3%)
ほとんどできない	69 (13.4%)
無回答	17 (3.3%)

(N=515)

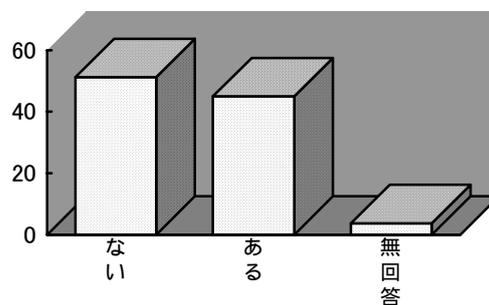


53 学習の有無

設問 「日本語を勉強したところがありますか。」

ない	264 (51.3%)
ある	232 (45.0%)
無回答	19 (3.7%)

(N=515)

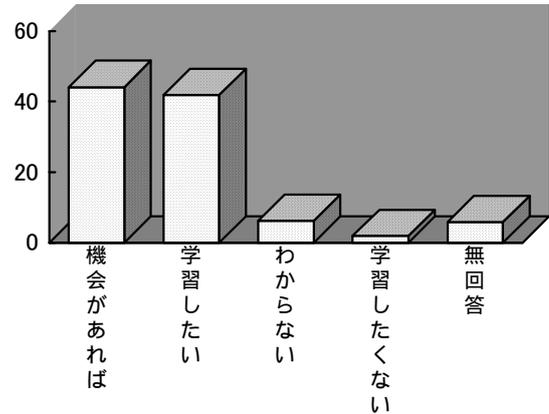


54 学習希望の有無

設問 「今後日本語を学習したいと思いますか。」

機会があれば学習したい	227 (44.1%)
学習したい	216 (41.9%)
わからない	32 (6.2%)
学習したくない	10 (1.9%)
無回答	30 (5.8%)

(N=515)

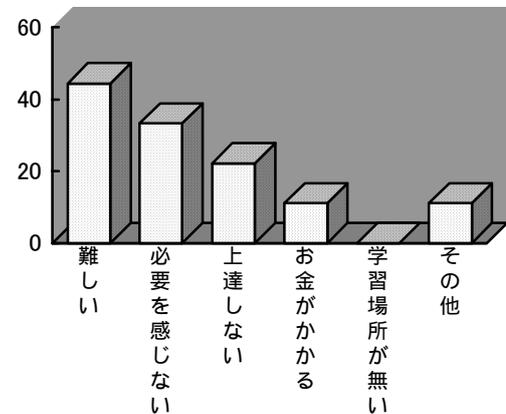


55 学習したくない理由

設問 「学習したくない理由は何ですか。」

難しい	4 (44.4%)
特に必要を感じない	3 (33.3%)
上達しない	2 (22.2%)
お金がかかる	1 (11.1%)
自分に適した学習場所が無い	0 (0.0%)
その他	1 (11.1%)

(N=11。複数回答)

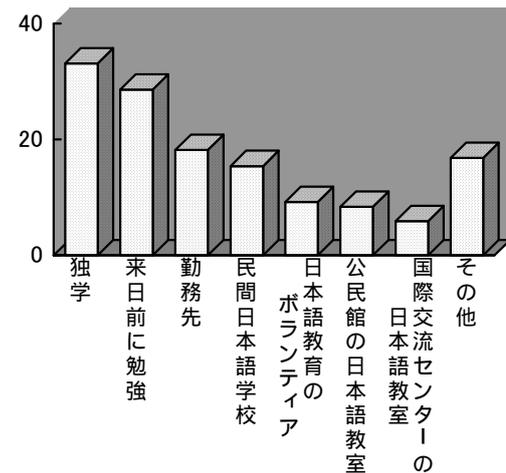


56 学習の場所

設問 「日本語をどこで勉強しましたか。」

独学	118 (33.1%)
来日前に勉強	102 (28.6%)
勤務先	65 (18.2%)
民間日本語学校	55 (15.4%)
日本語教育のボランティア	33 (9.2%)
公民館の日本語教室	30 (8.4%)
国際交流センターの日本語教室	21 (5.9%)
その他	60 (16.8%)

(N=484。複数回答)

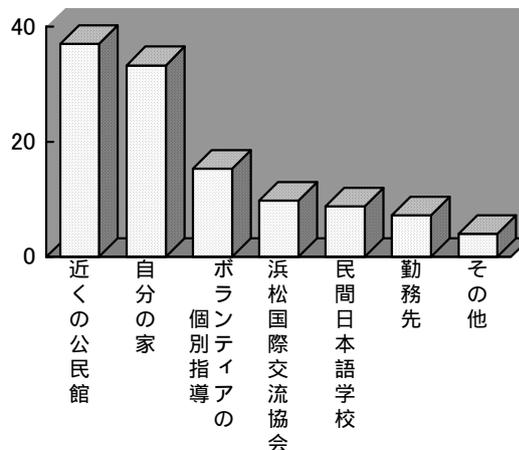


57 希望する学習場所

設問 「今後どこで日本語の勉強をしたいですか。」

近くの公民館	159 (37.0%)
自分の家	143 (33.3%)
ボランティアの個別指導	66 (15.3%)
浜松国際交流協会	42 (9.8%)
民間日本語学校	38 (8.8%)
勤務先	31 (7.2%)
その他	17 (4.0%)

(N=496。複数回答)

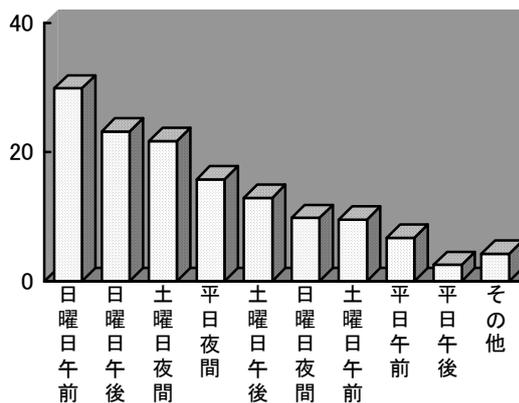


58 希望する学習日

設問 「希望する学習日を教えてください。」

日曜日午前	134 (29.9%)
日曜日午後	104 (23.2%)
土曜日夜間	97 (21.7%)
平日夜間	71 (15.8%)
土曜日午後	58 (12.9%)
日曜日夜間	44 (9.8%)
土曜日午前	43 (9.6%)
平日午前	30 (6.7%)
平日午後	11 (2.5%)
その他	19 (4.2%)

(N=611。複数回答)



【子供の教育】

大多数は公立の小中学校に通学。

母国語教育の必要性も。

大多数が公立の小中学校に通学している。他方、母国語教育に関しては「学習の機会があれば学ばせたい」が34.4%、「必要だが受けさせていない」12.8%、「家族で教えている」12.8%となっている。「現在、母国語での教育を受けている」との回答も10.5%あり、「必要を感じない」は1.7%にすぎない。母国語教育への関心は非常に高いものがある。

大人に比べ、子供の日本語能力は高く「ほとんどできない」は5.8%にすぎない。

子供の教育で困ったこととしては「進学・就職など子供の将来」が53.6%で最も多く、「授業についていけない」17.4%がこれに次いでいる。「子供の将来」に関しては、家族の将来設計と強く関係しており、滞在期間が長期化するなかで帰国に対する考え方や家族間におけるコミュニケーションなども含め、様々な課題を残していると思われる。

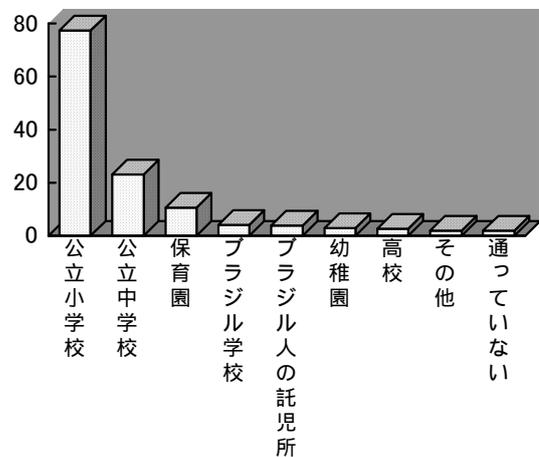
困ったときの相談先としては「学校の先生」が46.0%で最も多く、次いで「家族や親戚」が29.5%となっており、学校への信頼感が伺われる。

59 子供の通っている学校

設問 「お子さんが通っている学校等を教えてください。」

公立小学校	282 (77.3%)
公立中学校	84 (23.0%)
保育園	39 (10.7%)
ブラジル学校	15 (4.1%)
ブラジル人の託児所	14 (3.8%)
幼稚園	11 (3.0%)
高校	10 (2.7%)
その他	7 (1.9%)
通っていない	7 (1.9%)

(N=469。複数回答)

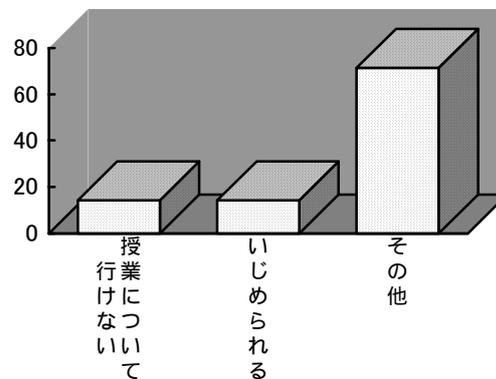


60 学校に通わない理由

設問 「お子さんが学校に通わない理由を教えてください。」

授業について行けない	1 (14.3%)
いじめられる	1 (14.3%)
言葉がわからない	0 (0.0%)
日本の学校になじめない	0 (0.0%)
友達ができない	0 (0.0%)
もうすぐ母国に帰る	0 (0.0%)
お金がかかる	0 (0.0%)
その他	5 (71.4%)

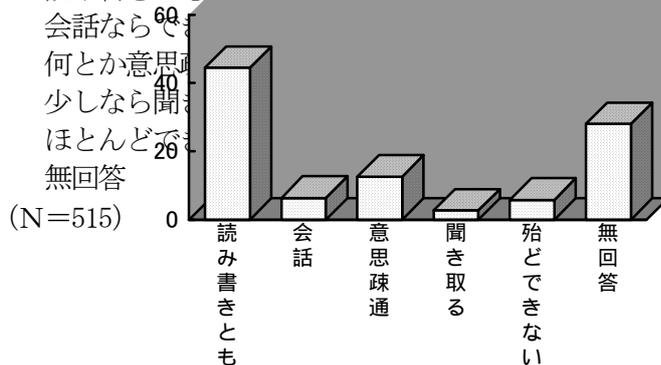
(N=7。複数回答)



61 子供の日本語能力

設問 「お子さんの日本語能力について教えてください。」

読み書きともができる 229 (44.5%)



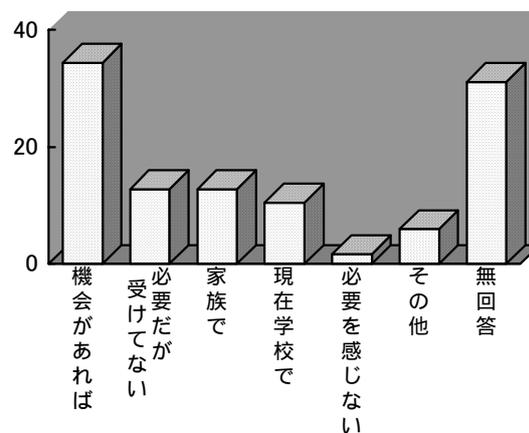
(N=515)

62 子供の母国語教育の必要性

設問 「母国語の教育を必要だと考えますか。」

学習の機会があれば学ばせたい	177 (34.4%)
必要だが受けさせていない	66 (12.8%)
家族で教えている	66 (12.8%)
現在学校で母国語での教育を受けている	54 (10.5%)
必要を感じない	9 (1.7%)
その他	31 (6.0%)
無回答	160 (31.1%)

(N=563。複数回答)

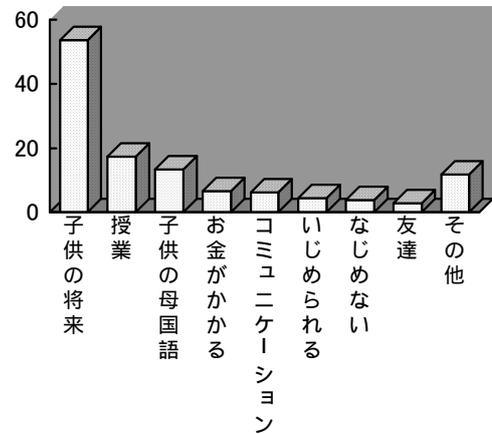


63 子供の教育で困ったこと

設問 「お子さんの教育で困ったことがありましたら教えてください。」

進学、就職など子供の将来	172(53.6%)
授業について行けない	56(17.4%)
子供が母国語を話せない	43(13.4%)
お金がかかる	21(6.5%)
先生とのコミュニケーションがとれない	20(6.2%)
いじめられる	14(4.4%)
日本の学校になじめない	12(3.7%)
友達ができない	9(2.8%)
その他	38(11.8%)

(N=385。複数回答)

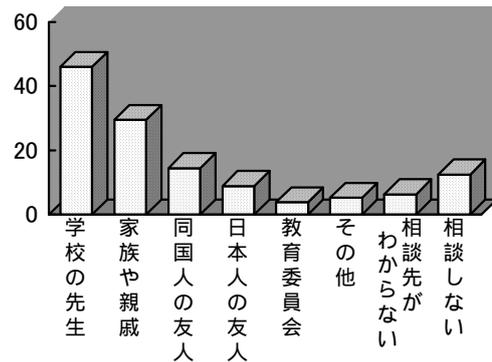


64 教育で困った時の相談先

設問 「教育について困った時の相談先はどこですか。」

学校の先生	165(46.0%)
家族や親戚	106(29.5%)
同国人の友人知人	52(14.5%)
日本人の友人知人	32(8.9%)
教育委員会の窓口	14(3.9%)
同国人の団体や相談機関	3(0.8%)
国際交流協会 (H I C E)	1(0.3%)
その他	15(4.2%)
相談先がわからない	23(6.4%)
どこにも相談しない	45(12.5%)

(N=456。複数回答)



【将来設計】

定住の課題は、ことば、教育、制度。

将来の計画については「当分の間日本で生活したい」44.3%が最も多く、「2～3年のうちには帰国を予定」18.4%、「母国の状況をみて帰国したい」17.4%の順となっている。これらの回答は、「いつか母国に帰ること」を前提としているものである。そうした思いを持ちつつ、母国の状況や子供の教育などの理由で滞在期間が長期にわたり、結果として定住化の様相となっているものと推察される。

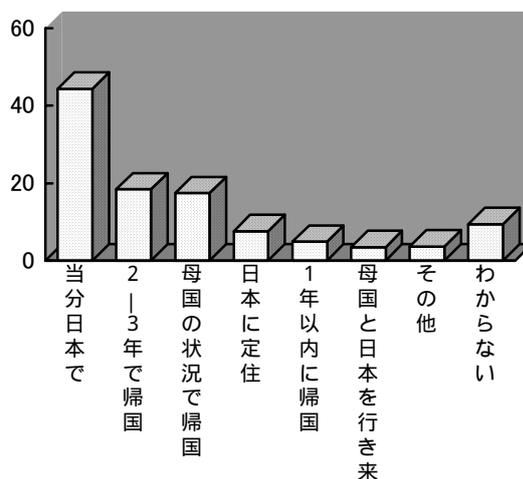
また、定住していくうえで問題になることとしては「ことば」「教育」「日本の諸制度」が上位にあげられている。

65 将来の計画

設問 「将来の計画について教えてください。」

当分の間日本で生活したい	216 (44.3%)
2～3年のうちには帰国を予定	90 (18.4%)
母国の状況をみて帰国したい	85 (17.4%)
日本に定住するつもり	37 (7.6%)
1年以内には帰国したい	24 (4.9%)
母国と日本を行き来して生活	17 (3.5%)
その他	18 (3.7%)
わからない	46 (9.4%)

(N=533。複数回答)

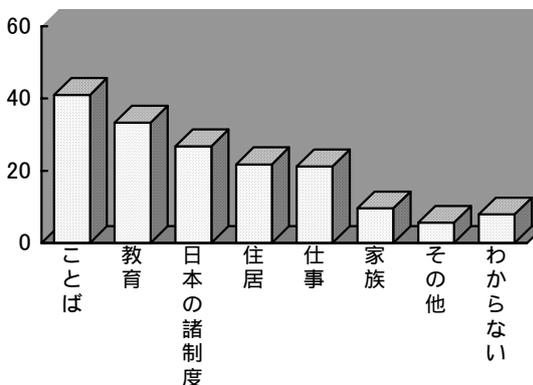


66 日本に定住する際の問題点

設問 「日本に定住していく場合問題になることを教えてください。」

ことば	145 (41.0%)
教育	118 (33.3%)
日本の諸制度	95 (26.8%)
住居	77 (21.8%)
仕事	75 (21.2%)
家族	34 (9.6%)
その他	20 (5.6%)
わからない	28 (7.9%)

(N=592。複数回答)



結 び

家族世帯の増加に伴う定住化傾向の進行。

外国人市民の滞在形態の多層化。

日本での生活に対する満足度は高く、地域と関わっていく意思も。

保健医療、教育など、日常生活に関わる諸問題への対応が課題。

これまでに実施した調査との比較するなかで、今回の調査の特徴としては次のようなことがあげられる。

まず、滞在期間の長期化である。入管法改正からの時間経過を考慮すれば自然とも思われるが、「日本での滞在期間7年以上」との回答45.5%はこれまでの調査の延長としてみても、きわめて特徴的である。この回答者層は入管法改正後1～2年で来日していることになる。96年の調査における改正時期の来日者は15.1%であった。

また、92年の調査と比較すると、「単身者」は14.6%から、5.3%に低下しており、「家族世帯」は40.4%から78.7%に上昇している。家族での滞在は、期間の長期化や滞在者の年齢層の拡大につながるものである。

今回の調査は、「小中学校の保護者」「外国人登録からの無作為抽出による郵送回収」「面接」の3つの方法で実施し、より多面的な外国人市民の実態の把握に努めた。結果として、みてきたように、長期にわたり滞在し、定住化傾向を示す層の拡大が確認された。

しかし、今回の調査ではカバーできなかった部分もまた存在する。郵送した調査票1000通のうち、未到達は86通であった。これは外国人市民の頻繁な移動を物語るものである。また、郵送回収方式のみの回収率は13.5%であり、この調査の外側にいる外国人市民も多数いることを認識しなければならない。その傾向は、面接による調査に求めることができる。面接における家族形態の「夫婦と子供」の比率は学校、郵送よりも低く、平均年齢もまた低くなっている。

このようなことから、外国人市民の滞在形態は、いくつかの層に分かれているとみることができると。そのなかで、日本での生活に対する満足度は高く、地域と関わっていく意思を持ち、家族と一緒に長期にわたり滞在する定住化層が確実に増加し、それによって日常生活に関わる諸問題、特に「保健医療」「教育」などへの行政や地域社会としての対応が一層望まれてきているものと考えられる。

外国人の生活実態意識調査
～南米日系人を中心に～
報告書

編集発行 浜松市国際室
〒430-8652 浜松市元城町 103-2
TEL. 053-457-2359 / FAX. 053-457-2362
発行日 2000年3月